

Shining ほいく



第37号 令和3年 11月 2日
編集・発行 保育サービス課研修担当

<今回掲載した研修>

- ◇キャリアアップ研修・・幼児保育
- ◇うたうということ

コロナ禍の中でのスタートとなった令和3年度、保育サービス課研修が、やむを得ず延期や中止となることもありましたが、多くの研修生は、保育の向上に向け沢山のことを吸収し、職場での実践に生かすべく受講に臨んでいることと思います。

「Shining ほいく」は研修の振り返りと実践への活用を目指し発行している機関紙です。

受講での学びや、それをどう実践に生かし保育の向上に繋げていくか、そして他園ではどのように研修内容を活用しているか等、受講者はもちろん是非職場の仲間たちと一緒に、読んでいただき、専門性の構築のためにもこの「Shining ほいく」を大いに活用していただきたいと思います。

- ① 「この間の研修どんな研修だった？」と職場で話すときに「参考になる」
- ② 他の園で、研修をどのように活用しているか知りたいときに「ためになる」
- ③ 保育を改善したいときに「なるほど！と気付きがある」

そんな紙面になれたらいいなあと写真も掲載し、保育園の実践や保育の工夫、皆さんの声をお届けしていきます



◇キャリアアップ研修 幼児保育 6月～7月 (計5回)

皆さんの研修報告より 感じた事・学んだ事

【令和3年6月21日(月) 幼児保育の環境 野口 隆子先生】

幼児が育つ環境・子どもを取り巻く環境

- ・子ども達をもっと知りたい、試したいとその事象や遊びに対して保育士がその思いをくみ取り次の保育へ繋げていく環境を整えていく大切さを改めて感じた。
- ・環境とは丁寧に見ないと見えないもの、意識しないと見えてこないものであり、保育の中ではありとあらゆるものが環境となる可能性があること、様々な方向から環境を振り返る必要性を感じた。

【令和3年6月28日(月) 幼児保育の指導計画・記録及び評価 岩立 京子先生】

全体的な計画に基づく指導計画の作成・観察を通しての記録及び評価

- ・保育における計画の重要性という点では、子ども達が主体性をもってやりたいと思えるような「しかけ」を考え計画を立てることが大切であること。またその子どもたちの姿から自分の保育を評価し、高めていくことが大切であることを学んだ。
- ・援助や指導で大事なことは、子どものやりたい活動と、発達に必要な体験の重なった部分をうまく展開していくことが重要であることを学んだ。タイミングやどの程度援助するか難しいが、実践と振り返りを繰り返しながら工夫していきたい。

【令和3年6月30日（水）幼児保育の意義

増田 修治先生】

幼児保育の現状と課題・幼児保育の役割

- ・コロナ禍の現在、家族の状況が変化し、保護者も問題を抱えていること、保護者を励ます（子どもを可愛いと思える、頑張ろうとする）援助や発信が大切であることを学んだ。
- ・「おもしろい」「やってみたい」と子どもがわくわくするような感情豊かに過ごせる環境作りの必要性を学んだ。新しい発想で自分自身もやってみたいとわくわくするような保育をエビデンスを踏まえて実践していきたい。
- ・非認知能力や知的好奇心をたか高めるために、具体的にどのような働きかけが必要か各年齢毎の取り組みを見て学ぶことが出来た。取り組み前後のデータを取ることで、子どもの成長、課題を明確にしたり、エビデンスがあるのか、そこからの説明責任があることを感じた。



【令和3年7月21日（水）小学校との接続

増田 修治先生】

- 保・幼・小連携について・アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム・保育所児童保育要録について
- ・学級崩壊や気になる子どもが増加している現状を知るだけでなく、就学までにみにつけておきたいポイント
- 子ども達への援助方法、そして成長を共に感じ、保育を知らせる保護者へのドキュメンテーションの必要性をより深く学ぶことが出来た。
- ・小学校の学びに向けての基礎作りの中では、座ったときの姿勢や鉛筆の持ち方の他にも「1体1対応」や方向の理解、道具を使いこなせることの重要性を学んだ。



【令和3年7月30日（金）幼児の発達に応じた保育 内容阿部 和子先生】

保育所保育指針について・資質と能力を育むための保育内容について

- ・保育所保育指針の内容から保育について考えを深めることが出来た。
- ・子どもの発達過程において、多くの時間を共に過ごす保育園での生活環境がどれだけ大切であるか、この研修で積み重ねて学んだ。
- ・養護と教育という点では、毎日のやり取りの中で自分の存在を受け止めてもらえる保育士等や友達との安定した関係を子ども自身が自覚し、心の土台となる個性豊かな自我を形成していくことが重要であることを学んだ。

《5回の研修を受けて》

環境一つとっても、物や人、保育内容、言葉かけ等様々な分野に広がりすべてを考え工夫し、実践を記録する。それを振り返り啓蒙していくことを実行していくことの必要性を強く感じている。就学前の学習の進め方も含め最低限のところでの援助の仕方等、一つひとつを園内で共有していくことが重要になってくると再認識した。



.....研修内容の活用.....

坂下三丁目保育園（5歳児）

・研修の中で紹介されていたマップ型記録を実際書いてみた

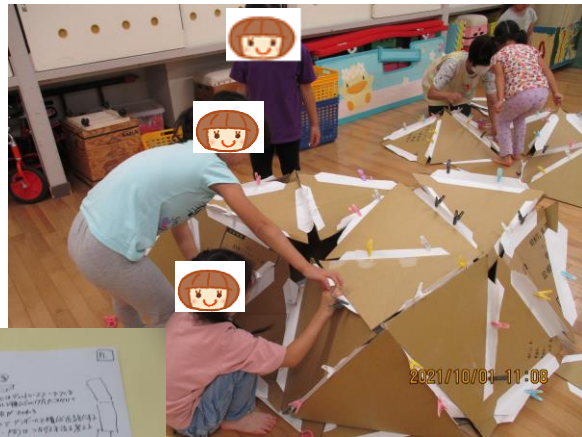
実際に書いてみると、コーナーの設置の仕方、ここでの声掛けは適切であったか等の振り返りがしやすくまた、他の職員と共有する際にもその場面がイメージしやすい。今後の計画と工夫に役に立つと感じた。

以下の写真は、普段から見慣れた段ボール箱だが、ホールに様々な大きさの段ボールを沢山準備しただけのところからのスタート。この遊びは回を増すごとに、子ども達のイメージがどんどん湧いてきて、友達との関わりにも変化が見られるようになり、協同性等が自然に学ばれていくと感じる。もちろん保育士のさりげない一言アプローチも重要になってくる。そしてそれも子どもを取り巻く大切な環境となる。

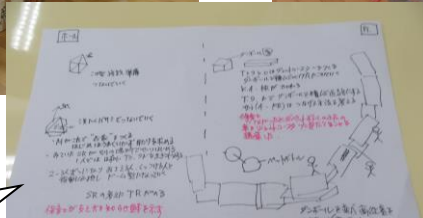
<段ボールジェットコースター>



<段ボールドーム>



マップ型記録



段ボールジェットコースター。ペットボトルのふたと洗濯ばさみを組み合わせたものを走らせます。

<保育士もわくわく>

・いろいろな素材を使って、イメージを形にしていく遊び。数人の友達と意見を出し合ったり、“ためし”を繰り返しながら、子ども達の展開は永遠に終わらない。形を変えて平面の三角段ボールもたくさん準備してみた。保育士の仕掛けに反応し、思考錯誤しながら夢中になる姿に保育士こそがわくわくしてしまう。子ども達にとって、“環境”の可能性があるものを見出していくのも楽しくなってくる。マップ型記録をみながら、どの場所にどんなものを配置したらよかったのか、保育士はどこにいて、どんな声掛けが展開につながったのか等の振り返りがしやすい。今後も子ども達をわくわくさせる環境作りを探っていきたい。気負わずとも子ども達をよく見ていると、すぐ近くに子ども達が喜ぶであろう環境はたくさん存在していると感じる。まさしくすべてが環境となり得ることを実感している。

<<研修担当より>>

・令和3年度は中堅保育士対象に保育の質の向上、レベルアップを目的に東京都保育士等キャリアアップ研修の専門分野より4分野（①乳児保育 ②幼児保育 ③障害児保育 ④保健衛生・安全対策）の実施をしています。各保育園にてリーダーシップを担い職員育成に繋がるよう、研修の学びを発信してほしいです。



◇うたうということは 9月6日(月)
日本童謡協会 早川 史郎先生 新沢 としひこ先生

日本の子どものうたの歴史から今を考える3つの視点

<3つの視点>

- ① 子どもの歌は、言葉と音楽を持ち、動きを伴って人から人へ伝わる文化である
- ② その伝達に関わる大人たちは誰か・・・
- ③ 感性を育み、遊びを豊かにする子どもの歌とは。

日本の子どもの歌の変遷、歌うということは心が音符や声になって表れる。子どもが歌いたいと思うような大人の働きかけが必要。子どもは歌を通して表現する、歌は素晴らしいコミュニケーションとのお話を頂く。



舞台上、♪にし♪の歌が始まると、受講生の席のあちこちで涙を拭う姿が・・・心打たれた瞬間だった。

皆さんの研修報告より 感じた事・学んだ事

- ・歌うことは子ども達にとって自分の思いを表現する大切な手段の一つだとわかった。
- ・歌の楽しさをまずは大人が体現することで、子どもにも「歌いたい」という気持ちを引き出していけるのではないかと思った。
- ・感性を育むものとして歌の大切さ、重要さを学べた。
- ・普段、何気なく歌っている童謡だが、どうやって誕生したかなど考えることがなかったので歌の変遷を知るよいきっかけとなった。

.....研修内容の活用.....

高島平すみれ保育園 ~おやつ後のひととき~

『くだもの列車』の歌をみんなで歌っているひとコマ

歌は、子どもに教えるものではなく一緒に楽しむもの♪子どもが歌いたいという気持ちを引き出しながらもまずは、保育士自身が楽しみながら楽しい時間を共有しています。



果物の製作をして視覚的にも歌を楽しませています。♪



<<研修担当より>>

・日本の子どもの歌の歴史から、うたうということを考え、伝え方を学ぶ貴重な機会となりました。子どもの感性を育み、遊びを豊かにするための歌を保育の中で取り入れる視点を持ち、実践に活かしてほしいです。

